

酒田 の 芸妓

港町の料亭文化を彩り、
芸に生きた女性たち

舞扇「天朱」(部分)・花柳界伝承舎酒田小鈴蔵



料亭の座敷で「庄内おぼこ」を踊る芸妓／昭和(個人提供)



庄内名物おぼこ踊り絵はがき／大正



令和4年

令和5年

11月19日(土)～2月12日(日)

【休館日】11月まで無休、12月～3月は月曜休(祝祭日の場合は翌火曜日)

※年未年始(12月29日～1月3日)は休館です

【開館時間】午前9時～午後4時30分

【入館料】一般200円、高校生90円

小中学生50円(市内小中学生は土日無料)

酒田市立資料館

〒998-0046 山形県酒田市一番町8-16

TEL・FAX 0234-24-6544

☑ sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp



酒田の芸妓

港町の料亭文化を彩り、芸に生きた女性たち

江戸時代には物流港として各地の船が行き来し、船乗りたちが羽を伸ばした今町・船場町・新町(高野浜)の遊所をルーツとして発展した酒田の料亭街。踊りや唄、三味線で宴席に花を添え、お客をもてなしたのが酒田の芸妓です。大正から昭和にかけての花柳界全盛期には、100人を超える芸妓たちが、今町と新町に分かれて芸を磨いて競い合いました。

活躍の場はお座敷にとどまりません。港座では毎年発表会が開かれ、山王祭(酒田まつり)などのイベントでも市民を楽しませてきました。酒田を全国にPRする観光大使的な役割も担いました。

戦後、生活様式の急激な変化により、芸妓の歴史も幕を閉じる寸前でしたが、平成に入り「酒田舞娘」制度がスタートし、その伝統は今日まで受け継がれています。

酒田舞娘の育成に尽力した力弥など、主に昭和期に活躍した芸妓たちを紹介しながら、明治以降の花柳界の歴史をたどります。

山王祭(現在の酒田まつり)の行列に花を添える芸妓たち。向かって右は「かつぽれ」の名手だった那美。左は男踊りに定評のあった小奴。撮影年代は不明。



30年以上にわたり「酒田舞娘」の育成に尽力し、令和2年に亡くなった芸妓・力弥(東光カメラ提供)



昭和27年(1952)9月、庄内の観光と物産の宣伝隊として、30名を超える酒田芸妓が東京へ派遣された。都内のデパートなどで「庄内おぼこ踊り」を披露し、街頭でパンフレットを配るなどして庄内をPRした。



芸妓たちは踊りや三味線、唄などの芸道に精進し、名取になる芸妓も多かった。左の写真は、藤間流の名取となった芸妓・笑子(藤間富美四)が、港座で行ったお披露目で踊った連獅子。昭和二十年代前半。

展示協力 池田英一氏、花柳界伝承舎 酒田 小鈴、後藤政子氏、近藤千恵子氏、東光カメラ、富樫久美氏、松山文化伝承館 (50首順)

資料館調査員による展示解説

日時/①12月10日(土)午前10時～
②12月17日(土)午前10時～
(各回1時間程度)

会場/酒田市立資料館1階企画展示室

料金/無料(入館料別途必要)

定員/各回10名

※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

申込/11月19日(土)から受け付けます。

お問合せ Tel : 0234-24-6544

酒田市立資料館



〈アクセス〉

- ◆JR酒田駅から庄内交通バス(約9分)「大通り商店街」下車 徒歩1分
- ◆庄内空港からシャトルバス(約30分)「中町」下車徒歩5分
- ◆日本海東北自動車道「酒田中央IC」より約10分(駐車場あり)

次回企画展予告

おひなさまがもっと面白くなるひみつ(仮)

令和5年2月18日(土)～4月3日(月)